

“健幸都市”を目指して

～ 安心して子育てができ、安心して歳がとれるまち～



福島県伊達市の紹介
伊達市国保の概要
健幸都市宣言までの経緯
健幸都市の実現に向けて
1 健康づくり
2 暮らしづくり
3 ひとづくり
伊達市の目指すまち

福島県伊達市長
仁志田 昇司

福島県伊達市の紹介

人口：61,945人

高齢化率：33.1%

(H29年3月31日現在)

面積：265.12Km²



伊達市の特産物



聖光学院高校



17代 政宗

©福島ガイナックス / 福島県伊達市

伊達市国保の概要

- 被保険者数 15,529人 (加入率25%・前期高齢者率44.8%)
- 世帯数 9,158世帯
- 一人当たりの医療費 34万9450円 (県内59市町村中 27位)
- 特定健診受診率 47.1%
- 特定保健指導終了率 59.3%

平成27年3月 データヘルス計画策定

- データから見た健康課題 (KDBデータ活用)
死亡、高額な医療費、要介護の原因である「**脳血管疾患**」「**虚血性心疾患**」の重症化予防
- 計画の目標
中・長期目標 (平成27年度～平成29年度)
脳血管疾患・虚血性心疾患・糖尿病性腎症の患者数減少 等
短期目標 (平成27年度)
・脳血管疾患、虚血性心疾患のリスクとなる**高血圧、メタボリックシンドロームの減少**。



- 平成28年度までの評価
一人当たりの医療費は増加傾向にあるが入院医療費は減少、脳血管疾患と虚血性心疾患は患者数、医療費ともに減少
特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上により重症化予防の効果が得られた

保健事業の取り組み

● データ分析に基づく保健事業

レセプト、健診データの分析により**事業効果が高い対象者を抽出し**、健診・医療機関受診勧奨等の通知および保健指導。通知後の行動変容を調査、事業効果を測定し次年度事業に活用（業務委託により実施）

特定健診未受診者対策
健診受診者フォローアップ（異常値放置者対策）
生活習慣病治療中断者対策
糖尿病性腎症重症化予防
ジェネリック医薬品普及啓発

長沢 裕（ながさわ ゆう）

● 協会けんぽとの共同事業「**血管を守る大作戦**」

- ・市の健康課題である「**高血圧対策事業**」として協会けんぽ福島支部と共同で平成25年度からイベント（講演会等）を実施
- ・平成29年度は伊達市出身タレントの長沢裕さん（日本テレビ系「ZIP!」出演中）をゲストに10月8日に開催予定
地域の医療機関の医師との対談、測定会、野菜販売会を実施



ZIP!出演中!!

健幸都市宣言までの経緯



平成18年 町村合併により伊達市発足

少子高齢社会に対して地域にあった施策を
提言・実践首長会からの取り組み参考
新潟県見附市の取り組み視察

健康運動教室



平成19年度

健康運動教室のスタート
エビデンスに基づく、ICTを活用
した運動教室 筑波大学 久野譜也教授
元気クラブ拡大 1施設から5施設へ増設
福島大学 安田俊広教授

元気クラブ



平成21年度

SWC（Smart Wellness City）首長研究会への参加
9自治体と筑波大学久野教授らで設立（平成21年11月）
現在、全国65区市町自治体、有識者で構成

健康政策

まちづくり政策



「健幸なまちづくり政策」

平成22年度

4月～健幸なまちづくり政策の具体化に向けた検討

2月：モデル地区の設定

市街地：掛田地区・中山間地：白根地区

3月11日：東日本大震災及び

東京電力福島第一原子力発電所事故

平成23年度

4月：放射能対策

- ・ガラスバッチ
- ・ホールボディカウンタ
- ・除染

11月3日：“Business as usual”

健幸都市宣言

12月：掛田地区一方通行反対

2月～3月：掛田地区住民説明会（13回）

住民との合意形成

健幸都市への理解

新たなまちづくりへの理解

中学生によるワークショップ



住民によるワークショップ



伊達市健幸都市宣言

平成23年11月3日

この世に生まれて 子どもを育て そして年老いていく 私たちの人生
その人生を 心豊かに 安心して暮らせること
それが 私たち みんなの願いです

そうした幸福の源は 健康です

健康は 市民一人ひとりの取り組みによる果実であり
歩くことを基本とする たゆまぬ努力によるものです
そして その健康という果実は
これからの社会を支える 大きな力となります

私たちは 歩くことが生活の基本であったことを
いつの間にか忘れてしまいました

車社会の便利さに浸りきった生活から
風を感じ 季節を感じながら
歩いて暮らすまちに 戻りましょう

そこには 人との出会いがあり 絆が生まれ
そこに住むことで 健康になれるまち
そういうまち 健幸都市に 故郷を変えたい

私たちは これからの高齢社会に向かって
誰もが健康で 安心して暮らせるまちの建設を目指し
ここに 「健幸都市」を宣言します



平成23年度策定

伊達市健幸都市基本構想

～ 安心して子育てができ、安心して歳がとれるまち～

平成25年度制定

伊達市健幸都市基本条例

平成26年度策定

伊達市健幸都市基本計画

伊達市道路
構造条例

健康づくり

予防と健康管理の強化

運動機会・体力づくりの充実

健康データの一元化

健康拠点の整備

暮らしづくり

歩いて暮らすまちへの転換

人のふれあい・絆の強いまち

コンパクトなまちづくりと
高齢者の住まいの確保

ひとづくり

健幸意識の醸成

青少年の情操育成

ソーシャルビジネスの創出

総合
特区

健幸クラウド
(総務省)

モデル地区(掛田)
でのインフラ整備と
ソフト事業(国交省)

健幸ポイントプロジェクト
(総務省・厚労省・
スポーツ庁)

健幸都市の実現に向けて

- 1 健康づくり



- 1 -

健康づくりの取り組み

元気じゃ脳教室



元気づくり会



元気クラブ

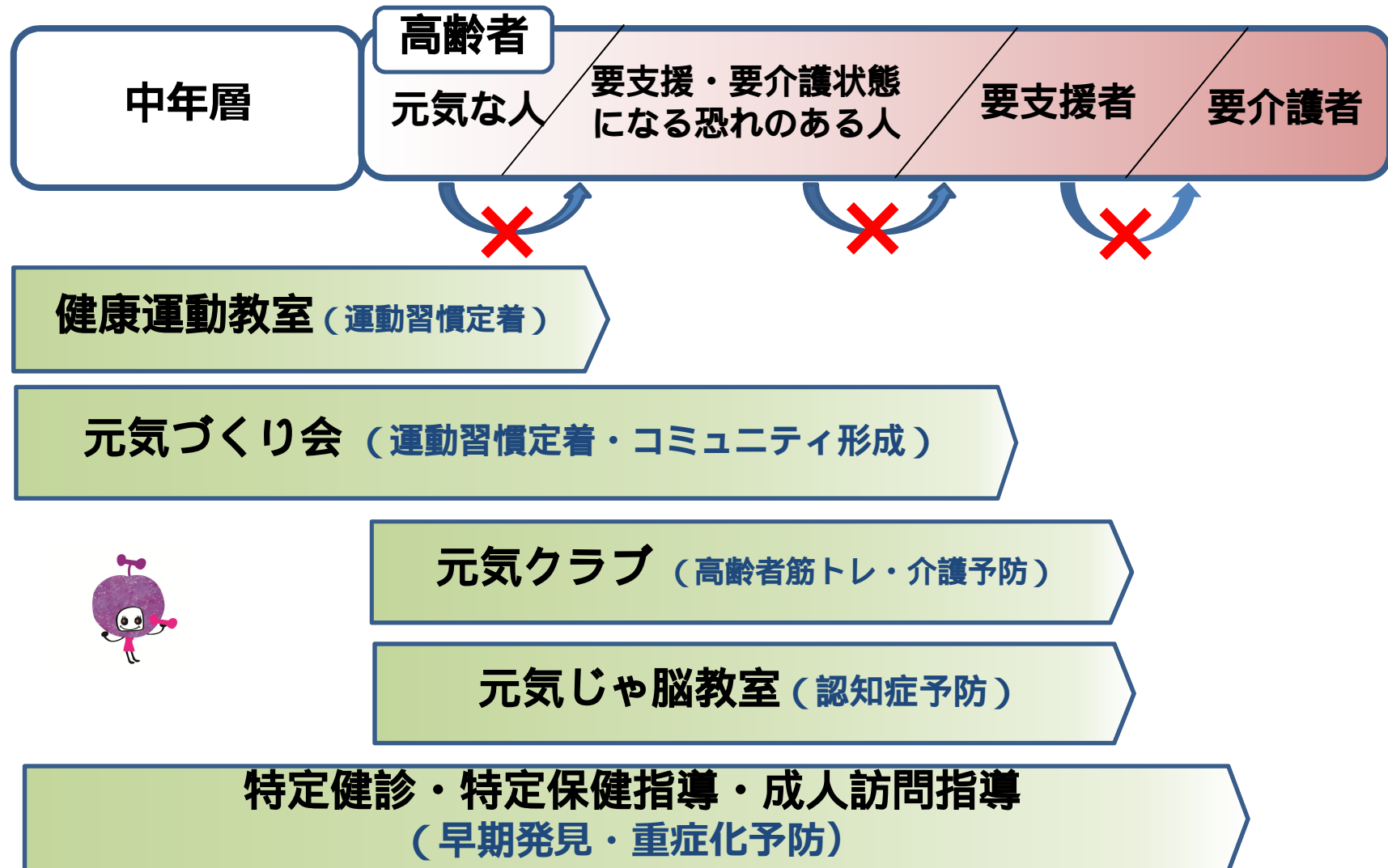


健康運動教室



予防重視型の健康づくり施策

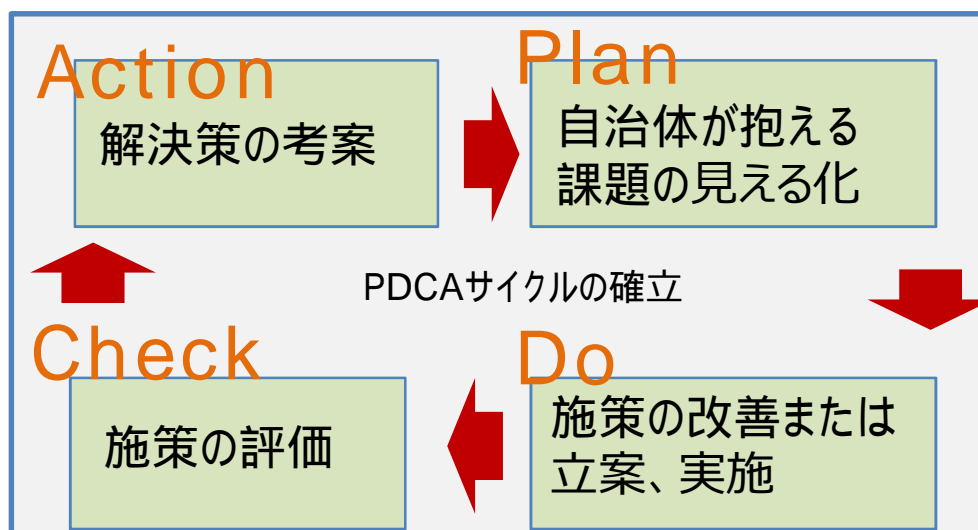
「生活習慣病予防」から「介護予防」まで一体的・連続的な施策



歩きたくなるまちづくりを目指して



健幸クラウドは、自治体が健幸都市づくりを進める上での課題を見える化し、その対策を立案、施策の実施・評価、そして成果を生み出すためのシステムである。



国保加入者と社保加入者を併せた市民のデータを匿名化後、健幸クラウドに登録する



自治体共用型健幸クラウド分析

標準分析レポート

- 現状分析
- 将来予測
- 施策効果シミュレーション

健幸都市インデックス

- 健幸都市づくりの総合評価

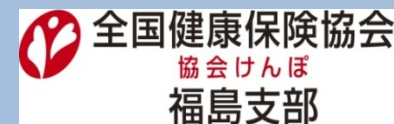
追加分析

- 生活習慣病傾向分析
- 医療費抑制効果 等

- 1 協会けんぽ福島支部との連携事業



協力連携



住民の健康増進

医療保険制度の安定

平成25年6月6日
東北初の事業連携基本協定



健康データの一元化
健診・医療データの分析
住民の健康増進に向けた協働事業推進
1) 保健事業の効果的な推進
2) 特定健診・がん検診の受診率向上
3) 医療費適正化の推進



市と協会けんぽの協議

健幸クラウドデータの活用

小学校区等ごとの疾病分析 居住地区ごとの違い

「高血圧症」患者数割合・一人当たり医療費一覧(国保②)
(霊山圏域、月館圏域、保原圏域)



表26-2:疾患別一人当たり医療費(高血圧症)

	平均年齢 (歳)	65歳以上 の割合(%)	高血圧症 患者数割合(%)			疾患別一人あたり 医療費(万円)		
	2014年度	2014年度	2010年度	2014年度	増減	2010年度	2014年度	増減
伊達市全体	62.4	48.8	25.3	26.9	1.6	6.1	7.6	1.5
霊山圏域	62.2	46.9	26.2	26.5	0.3	6.0	7.4	1.4
掛田小学校	62.2	48.4	26.0	25.5	-0.5	5.9	7.1	1.1
小国小学校	62.0	44.9	24.0	25.7	1.7	5.7	9.0	3.4
石田小学校	62.1	44.3	28.4	30.2	1.8	6.4	7.2	0.8
大石小学校	62.7	46.2	27.9	27.8	-0.1	6.4	6.8	0.4
月館圏域	62.2	45.8	21.9	25.9	4.0	7.8	9.3	1.5
月館小学校	61.9	44.5	22.0	26.4	4.4	7.7	9.1	1.4
小手小学校	62.9	50.5	21.4	24.2	2.8	7.9	10.0	2.0
保原圏域	62.5	50.4	25.6	26.8	1.2	6.3	7.9	1.6
上保原小学校	63.1	53.1	25.1	26.4	1.3	6.3	7.4	1.1
大田小学校	63.2	52.5	28.8	29.0	0.1	6.4	7.6	1.2
柱沢小学校	62.7	49.4	27.1	29.6	2.5	7.3	8.2	0.9
富成小学校	61.7	39.7	22.1	27.3	5.2	5.4	6.9	1.5
保原小学校	62.0	50.0	25.0	25.7	0.7	6.1	8.3	2.2
総合特区8市平均	62.6	50.8	17.4	19.6	2.2	9.3	8.6	-0.7

※分析対象者は、40~74歳の国保加入者 ※各年度21校区の平均に対して、赤字:平均+1SD以上、黒字:平均±1SD、青字:平均-1SD以下
Copyright © Tsukuba Wellness Research, Inc. All rights reserved.

KDBデータ
クラウドデータ

地域の特色にあった
保健指導・健康啓発

- ・ 特定保健指導
- ・ 成人訪問
- ・ 出前講座
- ・ 健康推進員の活用
- ・ 食生活改善推進員の活用

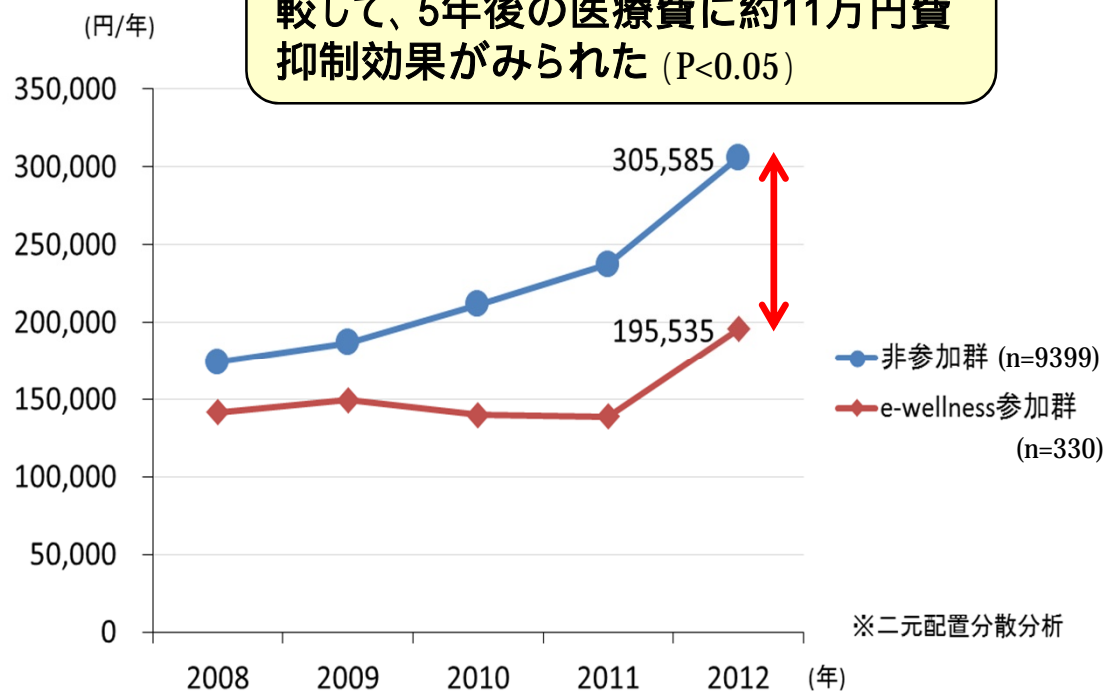
- 1 -

健康運動教室の効果

平成19年度事業開始

・筑波大学、つくばウェルネスリサーチと連携
科学的根拠に基づく個別運動プログラムに
より健康増進を図る運動教室

健康運動教室参加群が非参加群と
比較して、5年後の医療費に約11万円費
抑制効果がみられた ($P<0.05$)



有酸素運動 (エアロバイク)

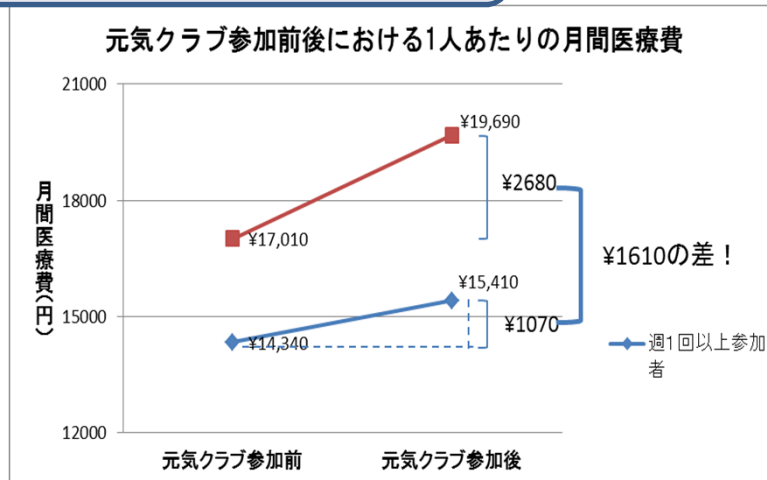


データ取り込み

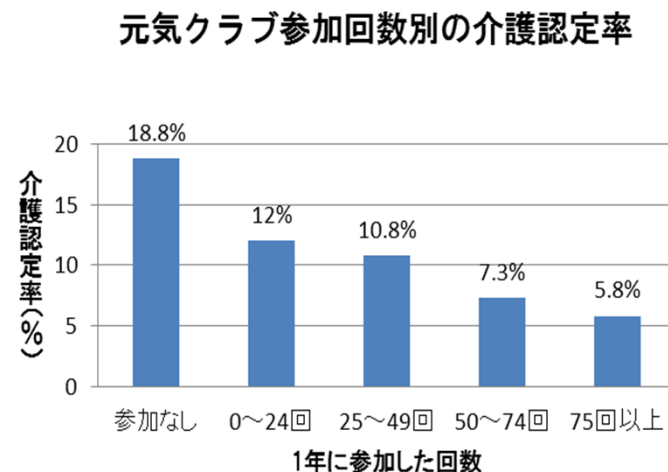


- 1 - 元気クラブ（高齢者筋トレ）の効果

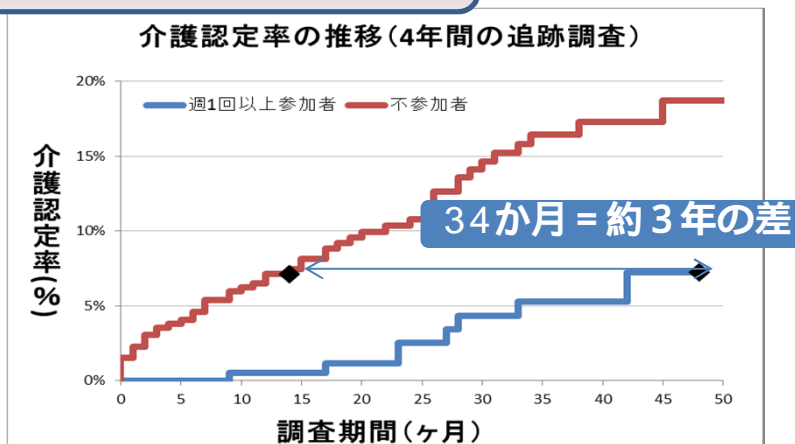
65歳～74歳の高齢者で
医療費の抑制効果！



参加頻度が高いほど
介護認定率が低い！



継続参加で介護認定を
3年遅らせる！



祝 1,000回達成！



- 1 -

「元気づくり会」活動状況

いなべ市「元気づくり大学」の支援

「身近な場所」で健康づくりに取り組む人を増やす「しくみ」

集会所コース

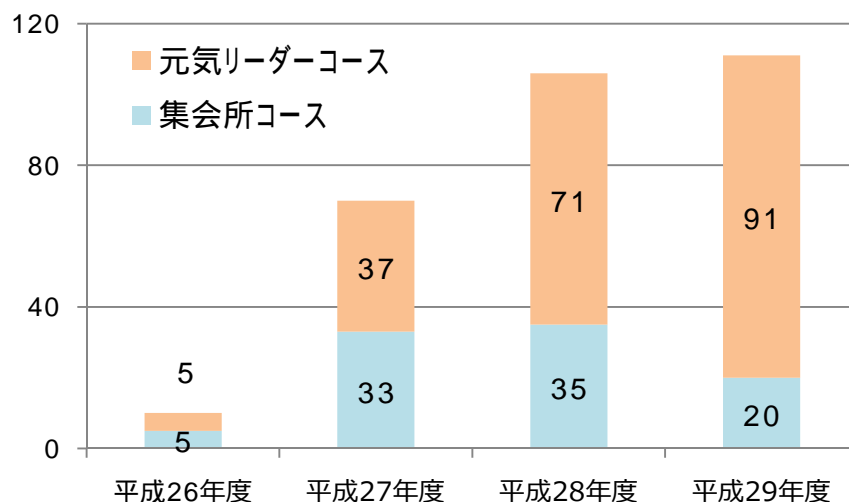
コーディネーターによる指導 6か月間

平成29年4月～平成30年3月 新たに20カ所予定

元気リーダーコース

元気リーダー（集会所コースによる指導を受けた市民）を中心に地域で自主活動

H29年4月末現在 71カ所まで拡大



元気づくり会の効果

アンケート結果（回答者120人）平成28年4月～9月集会所コース 16地区実施

身体の変化

血圧値が改善した
膝や腰の痛みが軽減した
歩きやすくなり、疲れにくくなった
草むしりや、農作業が楽になった
身体が柔らかくなった
腕をあげることができるようになった
姿勢がよくなったと言われる 等



心身の健康
フレイル予防
介護予防

社会的行動の活発化

歩く機会が増えた	65%
外出する機会が増えた	66%
会話する機会が増えた	80%
地域活動の機会が増えた	50%



地域自治
共助社会



健幸都市の実現に向けて

- 2 暮らしづくり





モデル地区のインフラ整備・ソフト事業

イメージハンプ
カラー舗装



歩行者用路面標示



平成26年1月29日
ゾーン30指定



ポケットパーク整備

地区内でのイベント開催～地域住民の主体的な取り組み



キャンドルナイトウォーク



だてマルシェ ～まちなか市～

- 2 - コンパクトビレッジ（小さな拠点づくり）



高齢者専用共同住宅（高齢者シェアハウス）

伊達市の特色

広大な中山間地に「高齢者のみの世帯」が点在

住み替え

- ・コンパクトビレッジの実現
- ・公共交通の充実
- ・共助社会の確立

高齢者専用共同住宅

平成27年4月



入居者同士が助け合い、見守り合い、元気で安心して暮らす
商店街機能があり、歩いて過ごせる環境



健幸都市の実現に向けて

- 3 ひとづくり



市民の健幸意識の向上

講演会等 （情報提供）

健幸講演会



市民皆スポーツ・運動 （環境・施設整備）

屋内子ども遊び場



- ・ 屋内こども遊び場整備
- ・ 市民プール整備
- ・ 総合型スポーツクラブ

健幸ポイント事業 （インセンティブ機能）

市民プール

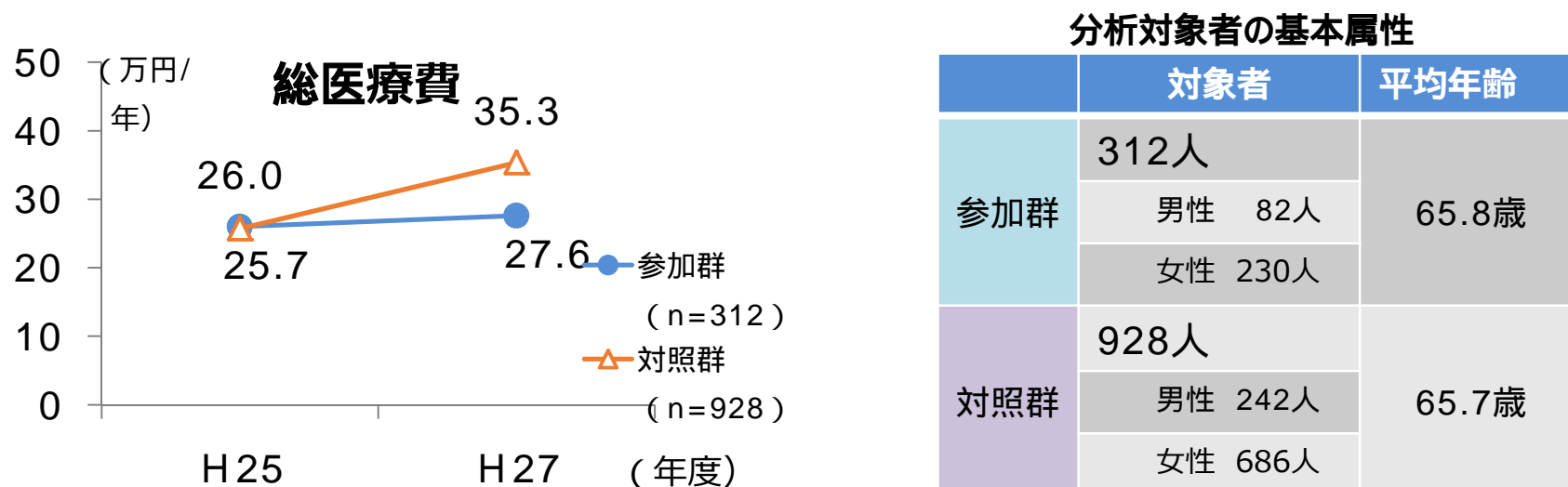


健幸ポイント事業（医療費抑制効果）

健康づくり無関心層も含めて多数の住民の行動変容を促すインセンティブ制度創出のための大規模実証実験を実施（平成26年度～平成28年度）

- 参加群における総医療費増加額は、対照群と比べて8.0万円低かった。

29年度以降も引き続き新たなポイント事業継続

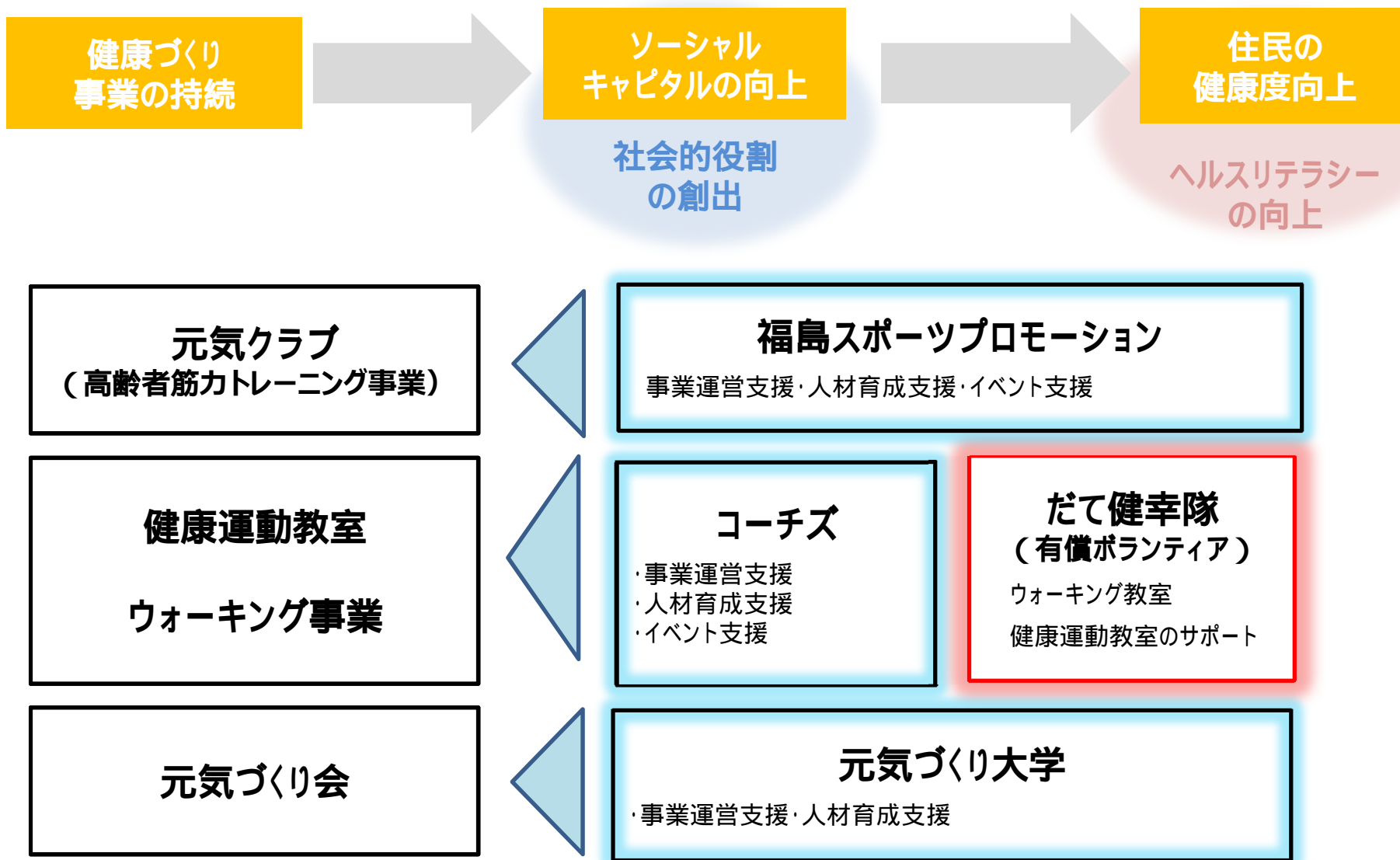


一人当たり総医療費の推移

	H25年度	H27年度	医療費増減	一人当たり 医療費抑制額
参加群	26.0万円	27.6万円	+1.6万円	-8.0万円
対照群	25.7万円	35.3万円	+9.6万円	

- 3

ソーシャルビジネスの創出



- 3 -

庁内連携及び人材育成

SWC推進会議

～ 庁内連携 ～

- ・財務部、教育部、建設部、産業部、
市民生活部、総務部、各総合支所等
関係部署との連携及び取組みの共有

SWC職員研修

～ イノベーター養成・全体研修 ～

- ・メンバー限定（12名）
- ・職員全体研修
将来の政策課題に対応するイノベーター
の養成
総合政策としての健幸都市施策の推進力
が図られる職員の育成



伊達市の目指すまち



「安心して子育てができ、
安心して歳がとれるまち」

「治療」「介護」から「予防」の重視へと転換し、元気な高齢者を増やす
「健康投資社会」

妊娠期からの「切れ目のない支援」により親子が笑顔で暮らせる架け橋
「伊達市版ネウボラ」

 smart wellness DATE

